

大会テーマ「医療福祉研究の理論と実践をめぐる現状と課題」

日時：2022年12月3日（土）

開催校：京都府立大学下鴨キャンパス

※オンライン配信は検討中

日程（開催方式により変更があります）

10：00～12：00	一般演題
12：00～13：00	昼食休憩（幹事会）
13：00～13：40	総会
13：45～16：45	シンポジウム

シンポジウム「医療福祉研究の理論と実践をめぐる現状と課題」

医療福祉分野の研究は実学的といわれます。それは生活に困難を抱える利用者とその生活を支える実践者（専門職）がいて、実践が積み重ねられているためです。積み重ねられた実践に関する研究が理論化されるという過程に特徴があります。理論なき実践も実践なき理論も成立しないほど、両者は深く関わっています。しかし、理論と実践のどちらに比重をおくかは議論があり、これは医療福祉研究の長年の課題といえます。

現在は社会保障給付費の抑制を目的とした「改革」が進められています。非正規雇用労働者の増加や正規雇用労働者の加重・過密労働も相まって、貧困・不平等の問題が深刻化しています。全ての人々の生活保障に向けた医療福祉分野の研究と実践が求められており、医療福祉分野の研究者と実践者が共に意識すべき課題といえます。本大会では生活保障の実現に向けて、研究と実践をどうつなぐか、特に両者をつなぐ人材をどう育てるかという点について考えます。そこで、研究大会では、大学院で博士号を取得した後にソーシャルワーカーとして働く黒川奈緒氏、実践者から研究者になり現在でも理論と実践をつないでいる堀場純矢氏、理論と実践をつなぐ重要性を認識し多くの研究者と実践者を育ててきた横山壽一氏に報告していただき、議論をしていきたいと思えます。

コーディネイター 長友輝薫（佛教大学）、村田隆史（京都府立大学）

趣旨説明「医療福祉研究の理論と実践をめぐる現状と課題を議論する意義とは」

村田隆史（京都府立大学）

報告①「研究生活を経て実践者へ～現状と課題～（仮）」

黒川奈緒（ソーシャルワーカー）

報告②「実践者から研究者となり理論と実践をつなぐ（仮）」

堀場純矢（日本福祉大学）

報告③「研究と実践をつなぐ専門職を育成する教育の経験（仮）」

横山壽一（佛教大学）

一般演題の募集について

研究大会では、一般演題を募集しています。一般演題の発表は、会員の方であればどなたでも可能です。院生の方からのご報告も歓迎いたします。応募される方は、(1)氏名・ふりがな、(2)所属、(3)演題名、(4)要旨(200字程度)、(5)パワーポイント使用の有無について、2022年9月12日(月)17:00(必着)までに担当役員：早川佐知子(明治大学)の以下の電子メールアドレス宛でご連絡ください。

E-mail:sachikohayakawa <@>meiji.ac.jp (<@>を@に置き換えてください)

受付受理後、こちらから返信いたします。応募後、3日経過して返信がない場合は、大変お手数ですが、再度ご連絡をお願いいたします。演題の採否は、10月上旬にお知らせいたします。

発表時間(質疑応答を含む)は30分間を予定していますが、演題の応募状況によっては短縮されることもあります。詳細は、採択の連絡に合わせてお知らせします。

なお、一般演題の応募が多数の場合、分科会として実施する場合がございます。

***2022年度は京都府立大学下鴨キャンパスにおいて対面方式で開催予定です。オンライン配信は検討中です。COVID-19の感染状況を考慮し、完全オンラインで開催する可能性もあります。最終的な開催方式・日程、参加申し込みの方法、参加費などについては、第2報でお知らせします。一般演題募集期間の延長など、学会ウェブとメールのみでお知らせする場合がありますので、適宜点検いただきますようお願いいたします。**

問い合わせ先：日本医療福祉政策学会事務局

606-8446 京都市左京区南禅寺北ノ坊町21番地永井ハウス

(有)セクレタリー・オフィス・サービス内

E-mail Address office<@>jshwp.org

(<@>は、@に置き換えてください)

Fax. (075)320-1701 Tel. (075)202-8105